

謙虚な大平先生を追慕して

中 條 晴 夫

私は大平先生とは終戦後の昭和二十年、先生がまだ大蔵省ご勤務の三十五、六歳の頃、私が百十四銀行営業部長の四十歳の頃から、終始一貫、同じ調子で深い温かみのある親身なおつきあいを賜りました。私より四歳お若い方でしたが、先輩に接するような重厚さを感じていました。後年、国際的一流の文化人として大成されるだけの風格を当時から持つておられたわけで、若さ溢れた魅力をもち、奥行き深い人格者でありました。

国際的トップクラスの文化人としてのみならず、政治経済の最高級のリーダーとしての風格を持ち、また、宗教者として敬虔なる信仰者であり、聖なる使徒であり、私達を公私ともに指導援助されました。社会的にも家庭的にも生真面目で静かで、しかもウィットに富んだ円熟した風格を持つておられました。プライベートのグループでは「おとつちゃん」のニックネームで尊敬と親しみを持たれておりました。本来秀才であり、才気煥発であると同時に、親分的要素を生まれながらに持つておられました。

読書家であり、熱心な研究者であり、ご専門の政治経済に關してはもちろんであります。一般社会問題に關しても古今の知識常識に造詣深く、謙虚で爛し銀のような奥ゆかしさが身につけておられました。家庭的には、超多忙の日々のなかにも、最良の奥様とご立派なお子様とのご生活は、なごやかな誠に潤いのあるもので、私達のように指導者であると同時によい見本であり、お手本でありました。公式の答弁とか講演は常にトットツツとしていますが、理路整然と語られ、そのまま文章になるとの定評がありました。私的な対談では、広汎な知識と常

識的な博学多才なウィットに富んだお話しぶりであり、対談者に安心感と愉快な時を過ごさせて下さる、人間的に安定感と信頼のおける抜群の能力の保持者でありました。それだけに万般にわたり、すみからすみまで神経が行きわたり、才覚、柔と剛、忍耐、深慮等と三拍子も五拍子もそろった人間性豊かな方でありました。

大平先生は津島寿一氏が大蔵大臣就任の時、秘書官として政治家としての種をまかれ、引き続き、津島先生とは性格的に異質の豪放磊落な大政治家池田勇人先生が秘書官として懇望され、また後に池田内閣の官房長官として政策企画の担当者・演出者としてご才幹を振るわれました。これは万人の知るところであります。性格の異なつた津島、池田両大臣が大平先生を特に選んで秘書官として迎えられたことは、いかに大平先生の人間的確かさと深謀遠慮と才幹のすぐれているかが信頼されたものであるかを示しています。

大平先生はその場その地位に従つて成長し、円熟し、無限の偉大さを発揮する本質を備えておられました。常に謙虚で初心を忘れない勉強家で、未来に向つて日々研鑽を怠らず、世界の急激かつ複雑な変化に対応し先取りする前向きな努力家であることが、国内的にも国際的にも、一流のリーダーとなつた所以でありましょう。

去年のある日、議会解散前後の頃でしたが、私が私邸をお訪ねした時でしたが、早朝八時頃、中近東の地図を拡げて、「いま中近東の勉強をしているところだ」とのお話を承つたことを思い出します。世界に向つては経済を含めた平和外交の舵取りを強調されていきました。その時、個人的には、いつ退場してもよいが、公人としては勉強と忍耐と全力投球の前進の時であることを語り合い、しみじみとしたものを感じました。

健康には「本人も特に用心をされていました。お酒はもともとほとんど召し上がらないが、割合健康家であつた。私も健康であるので常にいろいろご注意をいただき、「会食の時は、食卓に出されたものの半分は必ず残しなさい」と、親しく教えられたことをいまま思い出しています。